

『東日本大震災とポンプの呼び水現象とむちゃ振り企画』の関係

みなさん、こんにちは！

震災からもう4カ月がたとうとしております。

着々と復旧が進んでいるところもありますし、まだほとんど手つかずな場所もあると思います。

株式会社テクア技研も『心ある道(自己成長)を歩む』という理念を掲げ、家康公の『厭離穢土 欣求浄土(荒んだ世の中を住みよい世の中にする)』を社訓に、『半ば自分の幸せを 半ば他人の幸せを』と『人間万歳！』を人事理念としていますので、この震災という出来事を通して理念と社訓を体現する時が来ていると強く感じました。

そこでまず、4月12日～14日に一般財団法人 ラン・フォー・ピース協会からの依頼を受け、気仙沼に物資を運搬してきました。一般家庭で被災されていらっしゃる方たちのもとにテクア号で缶詰とかジュースとかお米とか生活必需品を小分けにして箱詰めし、お届けしました。



震災1カ月後でしたので、主要道路は復旧されていましたが、道路の両脇はベルリンの壁のように延々と瓦礫の壁で、ところどころ生々しく漁船が家屋に突き刺さっていました。

2度目はNPO日本を美しくする会のベースキャンプを訪ね、6月21日から23日まで石巻に行ってきました。専修大学の構内が解放されていて、ボランティア団体が所狭しとテントを張って生活し、被災地支援をしていました。

我々が取り組んだのは、瓦礫の仕分け作業で、炎天下の中で遅々として進まぬ気がする作業に無力感を感じながらも、ひとつひとつ無心で取り組んでいくことで、いつの間にか土嚢袋が片付いていき、みんなで喜びあいました。



そして次回は7月16日～18日、東海地区で活躍する若きイベントーたちと一緒に陸前高田でかき氷DE夕涼み大会を催してきます！！

本格的に被災地に入り込んで、体を張って復旧されているボランティアの方たちに比べたら、自分達のしていることは、復旧にはほとんど何の効果もないことかもしれませんが、意味はあると思います。

我々ができる事とは、まずきっかけづくりではないかと思えます。あまりにもひどい状況の中で、前向きになれない方たちがたくさんいらっしゃることは仕方のないことだと思えます。そんな中で、ほんの少しずつでも環境が良くなって行く様子を見ていただくこと、西日本が東日本の為に汗を流して動いている心意気を感じていただくこと、これが大事だと思えます。

それは我々がポンプを動かす時に、まずポンプ内を水で満たさないとポンプが水を吸い上げてくれない現象に似ています。まずポンプ内に水を満たすこと、これを『呼び水』と言いますが、原形をとどめない、荒れ果てた畑や港が少しずつ元の姿を取り戻していくのを眺めているだけでも、心に呼び水がされていくのではないかと思います。

今後は環境支援ではなく、現地で仕事を創りだし、雇用を促進していく支援に変わっていくのかもしれませんが、それまでは我々の様な週末ボランティアが数多く被災地に赴き、労力を提供して、経験と学びを持ち帰る。そんな持つつ持たれつの関係性の中で東日本が復興していけばいいと思っております。ここでも三方良しですね。

来月はモリコロパークで12月18日に実施予定の3000人の震災チャリティーの案内をさせていただきます！今まで30人しか人を集めたことがないのに、一般財団法人ラン・フォー・ピースさんから3000人のムチャ振り企画を引き受けました。実行委員長です。

助けてください(笑)！人間万歳(笑)！

感謝！ 羽原篤史

